

温めれば何度でもやり直せる

世界中のカカオと凸凹のみんな

山あり谷あり、もがき続けて19年



2021年日本民間放送連盟賞テレビ部門 グランプリ受賞

チョコレート な人々

東海テレビドキュメンタリー劇場第14弾

ナレーション：宮本信子 | プロデューサー：阿波野雅彦 | 音楽：本多俊之 | 音楽プロデューサー：栗田こずえ
撮影：中根芳樹 | 板谷達男 | 音声：横山謙 | 音響効果：久保田吉樹 | 監修：奥田繁 | 監督：神木祐司
製作・配給：東海テレビ | 配給協力：東映 | 2022年11月2分 | 東海テレビ放送

www.tokaidoc.com/choco



「温めれば、何度だって、やり直せる」夢のような力 私たちのチョコレート工場へようこそ!

愛知県豊橋市の街角にある「久遠チョコレート」。世界各地のカカオと、生産者の顔が見えるこだわりのフレーバー。品のよい甘さと彩り豊かなデザインで、たちまち多くのファンができました。その人気は日本中に広がり、いまではショップやラボなど全国に52の拠点をもち、華やかなデパートのイベントの常連になっています。「久遠チョコレート」は、ほかのブランドとは一味違って。代表の夏目浩次さんたちスタッフは、かれらが作るチョコレートのように、考え方がユニークでカラフル。心や体に障がいがある人、シングルペアレントや不登校経験者、セクシュアルマイノリティなど多様な人たちが働きやすく、しっかり稼ぐことができる職場づくりを続けてきました。

はじまりは2003年、26歳の夏目さんが3人のスタッフとはじめた小さなパン屋さん。その後、いくつもの事業を展開してきた夏目さんですが、トップショコラティエの野口和男さんとの出会いが大きな転機になります。「チョコレートは失敗しても温めれば、作り直すことができます」。しかもチョコレートはアイデア次第で付加価値が高まる魔法の食材。多様な人々を受け入れる夢の扉が見えました。こうして、新しく優しいチョコレートブランドの凸凹な物語がはじまりました。

『人生フルーツ』の 東海テレビドキュメンタリー劇場最新作 2021年日本民間放送連盟賞テレビ部門 グランプリ受賞作がついに映画化!!

福祉と経済、生きがいと生産性、さまざまな人と共に働くよこびと、その難しさ……理想を追い求めるチョコレートブランドの山あり谷あり、きれいなだけじゃない19年を描く、東海テレビドキュメンタリー劇場第14弾。どうぞご期待ください。



www.tokaidoc.com/choco

@tokaidocmovie

fb.com/tokaidoc.movie

“人生はチョコレート”の箱のようなもの。開けてみなくちゃわからない!
これは、映画『フォレスト・ガンプ/一期一会』の名台詞。
“こちらは、漫画『リーナツ』のちょっと意地悪な女の子、ルーシーの言葉。
この映画は、人生とチョコレートにまつわる、
甘くて、苦くて、カラフルなドキュメンタリーです。”

